

6 - 21 南海トラフ北東部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Northeastern Part of Nankai Trough

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和55～57年度の3か年計画で、「相模・南海トラフ海底活構造調査」として、南海トラフ北東部から駿河トラフ南端部において海底地形及び音波探査による地質構造調査を実施した。昭和57年度調査結果及び3か年をとりまとめて報告する。なお、昭和55,56年度については既に報告してある¹⁾²⁾。

1. 57年度調査(第1図)

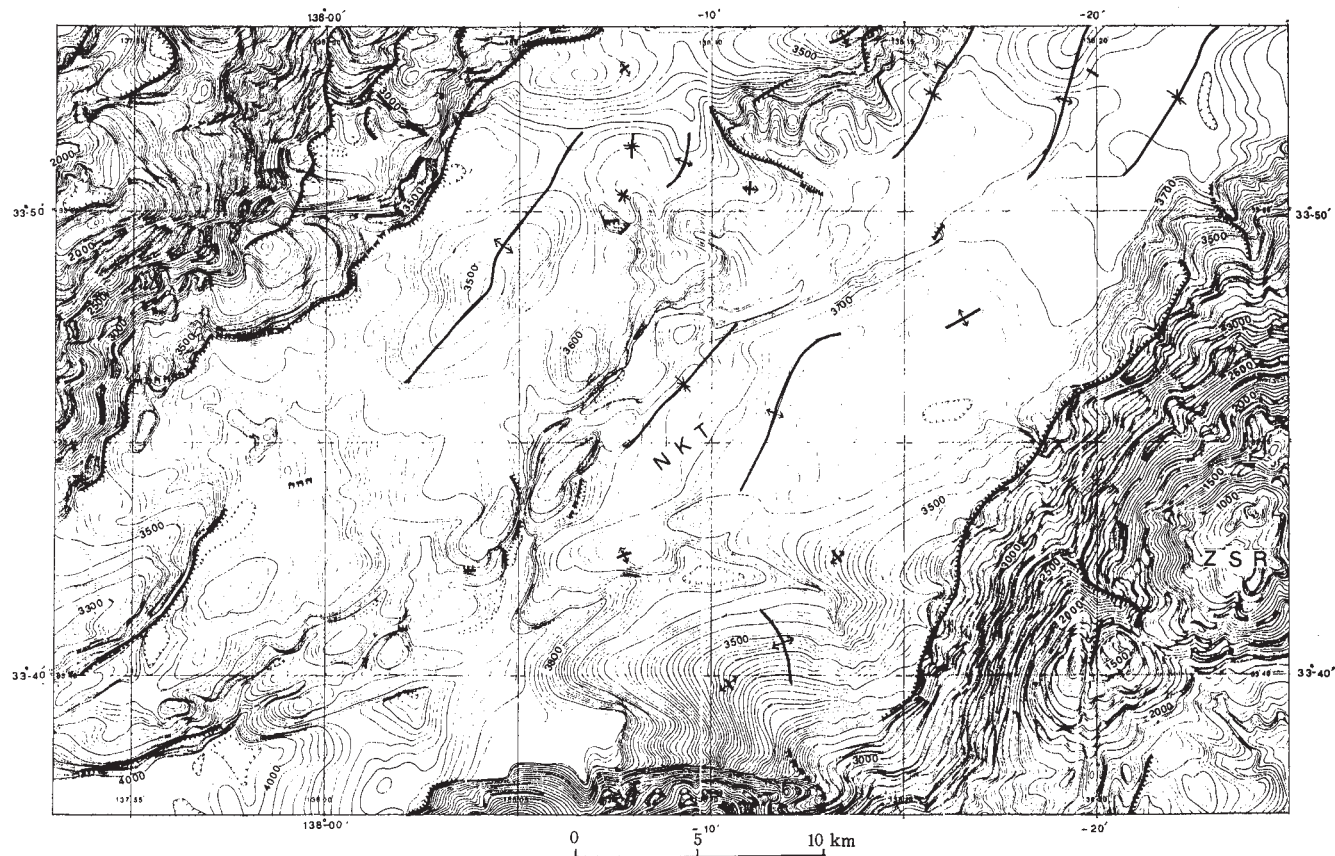
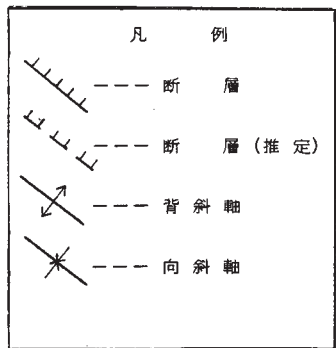
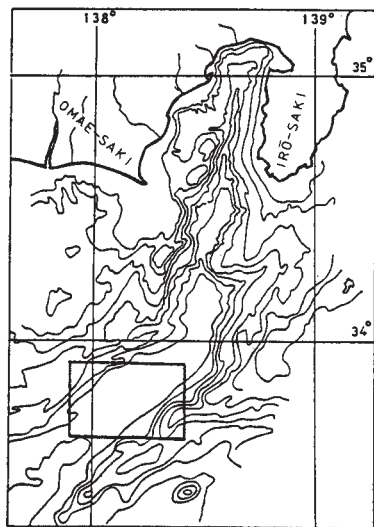
- (1) 南海トラフ底は平坦ではなく、トラフ軸の方向にほぼ平行で、わずかに蛇行するチャンネルが幾すじか認められる。トラフの中央にあるチャンネルが最も顕著である。
- (2) チャンネルの間には、北東-南西方向にのびる高まりが多数認められる。この高まりは、トラフの北西側に集中している。
- (3) 断層、摺曲軸はトラフ軸に平行なものが卓越している。

2. 55～57年度調査のまとめ(第2図)

- (1) 南海トラフは北緯34度付近のトラフ屈曲部を境としてトラフ底の微地形が異なる。すなわち屈曲部以北では極めて平坦であるのに対し、以南ではトラフ軸にほぼ平行する浅いチャンネルや比高の小さい高まりが発達している。
- (2) トラフの東側斜面は比較的単調であるのに対し、西側斜面は起伏が大きい。
- (3) 断層、摺曲軸の分布をみると、北緯34度以北ではNNE-SSW方向、以南ではNE-SW方向の構造が卓越している。

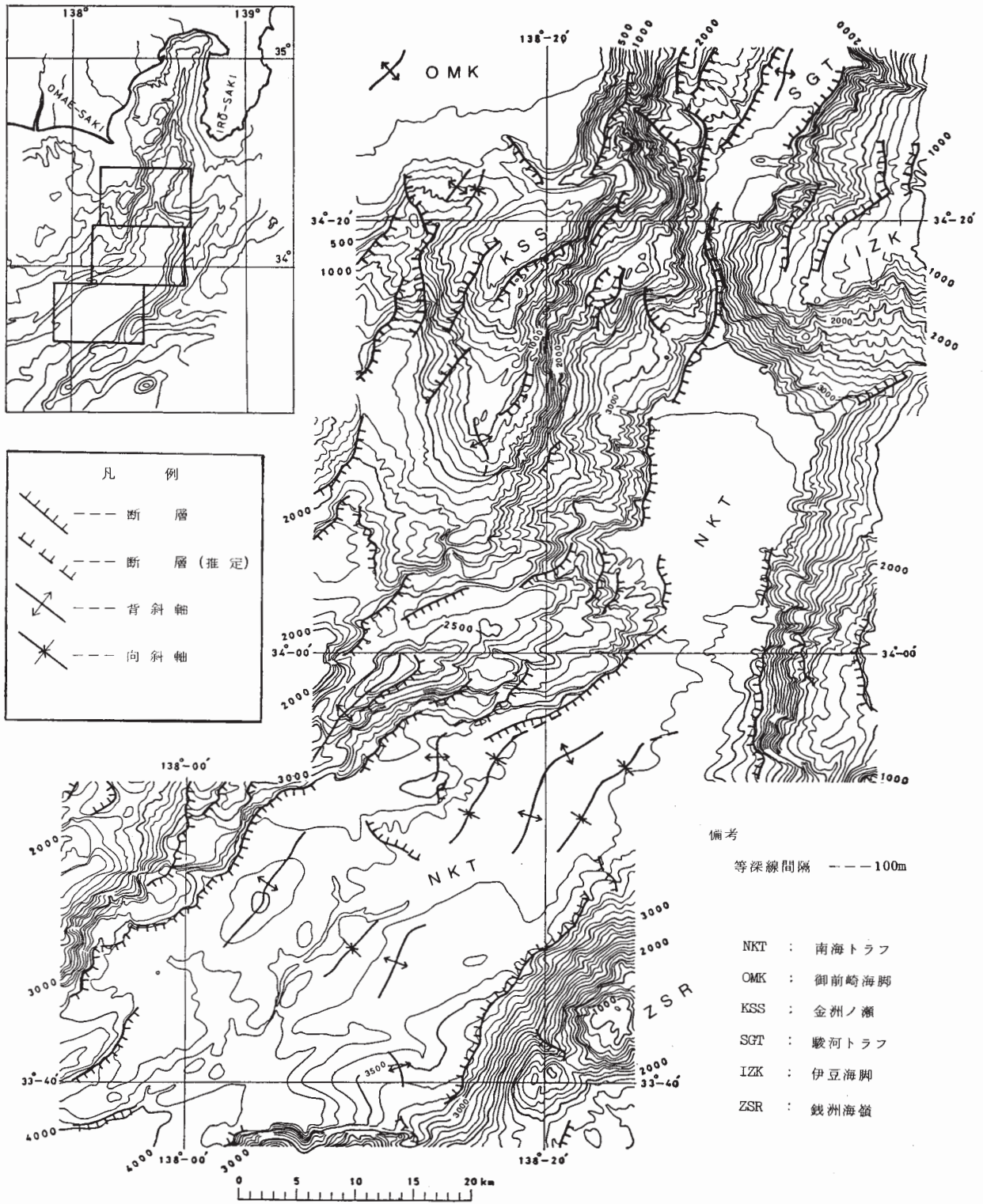
参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：駿河トラフ南部の海底地形・地質構造，連絡会報28(1982)，248-249.
- 2) 海上保安庁水路部：南海トラフ東端部の海底地形・地質構造，連絡会報，29(1983)，269-271.



第 1 図 南海トラフ東端部の海底地形・地質構造，等深線間隔 10 m
 NKT：南海トラフ，ZSR：銭洲海嶺

Fig. 1 Submarine topography and geological structure in the most eastern part of Nankai Trough.
 Contour interval 10 m.
 NKT: Nankai Trough, ZSR: Zenisu Ridge



第2図 南海トラフ北東部の海底地形・地質構造, 等深線間隔 100 m

Fig. 2 Summized submarine topography and geological structure in the northeastern part of Nankai Trough. Contour interval 100 m.